

事務事業 事後評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	歴史資料室等維持管理事業				事業通番	4444		
					開始年度	平成13年度		
総合計画体系	政策	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--		
	施策	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	教育文化課		
予算科目	会計	一般会計		款	教育費		担当係名	生涯文化係
	項	社会教育費		目	文化振興費		重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法	
事務事業の概要	旧赤沢幼稚園においては、発掘調査によって出土した油田遺跡、十五壇遺跡、北長尾遺跡等の町内で出土した埋蔵文化財の整理・保管を行う。 向羽黒山城跡整備資料室においては、向羽黒山城跡を紹介する施設として整備し、定期開館等による活用を図る。	
対象（誰、何を）	埋蔵文化財及び向羽黒山城跡の紹介資料	
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	適正な環境で管理・保管され、町民への閲覧が可能な状態となっていること。	
成果の考え方	収蔵資料が適正な環境において保存・管理されることが第一であるが、そのためには収蔵資料を保存する施設管理が必要であるだけでなく、資料の台帳整備も大切である。 また、保存・管理している資料を、その価値を知らせるためにも町民の目に触れる機会を作ることも、今後長期間資料を保存してしていくために必要なことである。	
【成果指標】		単位
A 台帳登録された遺跡の件数		件
B 資料を町民へ周知するための展示等の回数		回

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(決算)	2年度(決算)
事業費(千円)	5,095	1,302	1,029	1,353	1,244
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	5,095	1,302	1,029	1,353	1,244

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
A	-	3	3	3	3
	1,700	3	0	0	0
B	-	12	12	21	76
	20	13	15	81	59

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 各資料室の維持管理（浄化槽管理・警備・消防設備保守点検の委託等）を行った。 向羽黒山城跡整備資料室の定期及び特別開館では、900名を超える見学者があった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 施設の適正な維持管理により、埋蔵文化財及び向羽黒山城跡の資料保存に努めた。 向羽黒山城跡整備資料室では、定期及び特別開館をPRし、向羽黒山城跡の紹介に努めた。

3. 最終評価

【事業実施の方向性】	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合等を検討 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合	
【今後の改善方針】	発掘調査によって出土した埋蔵文化財については、資料データの整理に加え、引越しの準備を完了させる。 また、本郷生涯学習センターの移転計画の策定に合わせ、本郷焼資料と向羽黒山城跡整備資料室の在り方について検討する。	
成果の方向性	現状維持	(理由) 郷土資料館（仮称）整備に関連するため、「文化財保存・活用事業」として事業を推進する。

事務事業 事後評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	向羽黒山城跡調査事業				事業通番	4628		
					開始年度	平成23年度		
総合計画体系	政策	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	令和12年度		
	施策	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	教育文化課		
予算科目	会計	一般会計		款	教育費		担当係名	生涯文化係
	項	社会教育費		目	発掘調査費		重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法・福島県文化財保護条例・会津美里町文化財保護条例	
事務事業の概要	壮大堅固な山城で、遺構の残存状況も良好であり、歴史的由緒も明らかな、全国有数の重要な中世山城跡である「向羽黒山城跡」を保存し、永く後世へ伝え、町民をはじめ多くの方々が親しみ活用できる史跡として調査及び整備を行う。	
対象（誰、何を）	向羽黒山城跡	
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	「向羽黒山城跡」が整備され、活用が図られる。	
成果の考え方	向羽黒山城跡整備計画書に記載されている事業計画の項目を指標とする。 向羽黒山城を広く周知するため、各種事業への参加者数を指標とする。	
【成果指標】		単位
A 年度別事業計画で事業が完了した項目数		項目
B 各種事業への参加者数		人

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(決算)	2年度(決算)
事業費(千円)	7,149	5,165	8,135	5,423	2,409
国庫支出金	3,500	2,500	4,000	2,585	1,187
県支出金					
地方債					
その他	3				
一般財源	3,646	2,665	4,135	2,838	1,222

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
A	-	60	65	70	75
	58	60	65	69	73
B	-	600	700	700	800
	581	761	851	854	974

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・二曲輪地区において地形確認調査を実施し、城跡の解明と環境整備を行った。 ・調査整備後に、現地説明会を開催した。 ・文化庁の文化財調査官及び調査整備委員会により、指導助言を受けた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地形確認調査では、当時の道のルートを新たに確認し、城内のルート解明が進展した。 ・現地説明会の開催により、地域住民に対してさらなる周知に繋がり、興味関心が高まった。 ・文化庁等の指導助言により、今後の事業のあり方について検討ができ、方向性を見定めることができた。

3. 最終評価

【事業実施の方向性】	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合等を検討 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合	
【今後の改善方針】	文化庁及び県文化財課の指導助言を得ながら、修正版の事業計画を作成する。 また、二曲輪地区の地形確認調査を実施し、環境整備を図るとともに、早期に現地説明会を開催する。	
成果の方向性	現状維持	(理由) 今後は、「遺跡調査・整備事業」として、多くの方々が親しみ活用できる史跡として調査及び整備を実施していく。

事務事業 事後評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	遺跡調査事業				事業通番	4640	
					開始年度	平成17年度	
総合計画体系	政策	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	教育文化課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	生涯文化係
	項	社会教育費		目	発掘調査費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法・地方教育行政の組織及び運営に関する法律、会津美里町区域内開発事業に係る埋蔵文化財保護事前協議要綱
事務事業の概要	町内の埋蔵文化財の保護のため、開発事業等により失われる遺跡について、記録保存のための対応をし、土器等の出土資料や写真等の記録類を郷土の歴史資料として活用する。
対象（誰、何を）	遺跡
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	遺跡が記録保存され、それらの記録（遺物・図面・写真）が活用される。
成果の考え方	遺跡の調査を実施することが主たる目的ではないが、開発事業等により消滅してしまう遺跡の対応について箇所でもカウントする。さらには、これまで調査が行われた遺跡も含め、調査によって得られた出土品や写真・図面などの記録類が地域の歴史資料として活用できるようにしていく。
【成果指標】	
A 開発事業等で対応した遺跡数	単位 箇所
B 活用できる状態になった遺跡	箇所

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(決算)	2年度(決算)
事業費(千円)	2,134	2,081	0	3,475	8,438
国庫支出金	1,000	1,000			
県支出金					
地方債					
その他	6	1			
一般財源	1,128	1,080	0	3,475	8,438

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
A	-	1	1	1	1
	29	1	1	3	1
B	-	3	20	3	1
	15	3	0	0	1

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 開発事業に伴う発掘調査（高田館跡）を1件実施した。 開発事業計画に伴う埋蔵文化財包蔵地の有無について対応した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 開発事業に対して、適切に埋蔵文化財の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図った。

3. 最終評価

【事業実施の方向性】	
<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合等を検討 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合	
【今後の改善方針】	
遺跡調査は現場に専従になることが多いため、この調査業務に加え、係内の業務がスムーズに推進できる体制を構築する。	
成果の方向性	拡充 (理由) 今後は「遺跡調査・整備事業」として、民間業者等による開発事業への対応の可能性もあることから、遺跡調査ができる状態を維持する。

事務事業 事後評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	地域文化振興事業				事業通番	5506		
					開始年度	平成17年度		
総合計画体系	政策	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--		
	施策	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	教育文化課		
予算科目	会計	一般会計		款	教育費		担当係名	生涯文化係
	項	社会教育費		目	文化振興費		重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化芸術振興基本法	
事務事業の概要	本町の伝統・芸術文化の振興を図るため、補助金交付を通じて各種文化団体の活動支援を行う。	
対象（誰、何を）	町民の伝統・芸術文化振興に寄与すると認められた文化団体	
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	それぞれの団体活動を通して伝統・芸術文化の振興を図り、伝統文化を後世へ継承する。	
成果の考え方	文化団体を支援することにより、本町の文化芸術の振興、伝統芸能の継承が図られている。	
【成果指標】		単位
A 補助金が交付される団体数		団体
B 文化団体に加盟する延べ会員数		人

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(決算)	2年度(決算)
事業費(千円)	4,508	1,251	1,222	1,205	3,591
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	4,508	1,251	1,222	1,205	3,591

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
A	-	16	15	16	19
	17	15	15	15	15
B	-	802	800	810	800
	813	794	820	806	810

(3) 活動実績及び成果

活動実績	・ 伝統・芸術文化の振興を図る団体に対し、会津美里町生涯学習振興事業補助金・伝統文化継承活動事業補助金・文化財保存事業補助金を15件、2,026,099円交付した。（15件の内訳）伝統芸能・民俗文化財保存団体3件、芸術文化団体1件、文化財保存団体11件
成果	・ 各種補助金を交付し、伝統芸能等の継承や指定文化財の保存等の活動を支援することにより、本町の伝統・芸術文化の振興につなげることができた。

3. 最終評価

【事業実施の方向性】	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合等を検討 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合	
【今後の改善方針】	子どもたちの伝統芸能への解を深めるため学校との連携を図るとともに、各種団体の個別相談に応じるなど、伝統芸能が継承するためのあらゆる方策を検討・実施する。 また、公共ホール音楽活性化事業を活用し、質の高い芸術に触れる機会を設ける。	
成果の方向性	拡充	(理由) 伝統芸能等の継承や指定文化財の保存、美術展等の芸術文化振興事業を継続するため、支援体制を見直しとともに、新たな事業により良質の芸術に触れる機会をつくる。

事務事業 事後評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	民俗資料収集・活用事業				事業通番	5509	
					開始年度	平成17年度	
総合計画体系	政策	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	教育文化課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	生涯文化係
	項	社会教育費		目	文化振興費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法・福島県文化財保護条例・会津美里町文化財保護条例・会津美里町民俗資料館条例					
事務事業の概要	昭和40年代より継続的に収集され、保管されている総計約5000点の民俗資料について、一点ごとの資料台帳を整備し、収集資料の把握と恒久的に保存・継承するための管理体制を整える。 また民俗資料を広く公開し、町民が歴史や文化に触れる機会の充実を図る。					
対象（誰、何を）	①民俗資料 ②小学校3年生以上の町民					
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	①地域の歴史を物語る資料として収集され、保存される。 ②郷土の歴史に関心を持つ。					
成果の考え方	単なる古いモノを集めるということではなく、社会や人類の歴史を学ぶ資料として収集・保存するものである。それらを公開することで、郷土の歴史に関心を持ってもらう。					
【成果指標】						単位
A	新規の収蔵資料点数					点
B	資料館入館者数					人

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(決算)	2年度(決算)
事業費(千円)	293	239	278	224	199
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	293	239	278	224	199

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
A	-	10	10	10	10
	5,000	10	13	1	0
B	-	400	420	440	0
	485	340	433	332	0

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 民俗資料館専門委員会を6回開催し、会津美里町郷土資料館（仮称）における民俗資料コーナーの展示テーマについて検討し、大きく3つの展示テーマに絞り込んだ。 収蔵している民俗資料を郷土資料館（仮称）へスムーズに移送できるように整理、梱包を進めていることから新鶴民俗資料館と高田民俗資料室は閉鎖している。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 会津美里町郷土資料館（仮称）における民俗資料コーナーの展示テーマについて検討し、開館後に町民が歴史や文化に触れる機会の充実につなげることができた。 新鶴民俗資料館は移転準備のための閉館により、小学3年生の社会見学による来館が無くなったことで、入館者数は激減した。

3. 最終評価

【事業実施の方向性】		
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合等を検討 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合		
【今後の改善方針】		
郷土資料館（仮称）への移転に向け、各施設に点在する資料の整作業をい、今年度でテーマに沿った展示内容・展示資料を決定する。生涯学習センター等と連携し、民俗資料の学会等の取り組みを検討する。		
成果の方向性	現状維持	（理由） 郷土資料館（仮称）の開館に合わせた準備となるため、「文化財保存・活用事業」として取り組む。

事務事業 事後評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	文化財調査事業				事業通番	5513		
					開始年度	平成17年度		
総合計画体系	政策	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--		
	施策	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	教育文化課		
予算科目	会計	一般会計		款	教育費		担当係名	生涯文化係
	項	社会教育費		目	文化振興費		重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法						
事務事業の概要	文化財を後世に継承するため、文化財の現況調査を実施し、必要な修繕及び活動支援等を行う。						
対象（誰、何を）	文化財						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	指定文化財が恒久的に保存・管理される。また、文化財が広く周知され、活用が図られる。						
成果の考え方	指定文化財は、地域の歴史を知る上で重要な文化財と認められたものであることから、町の歴史を後世に継承するために指定のための調査およびその指定は必要なものである。また、これらの文化財の価値を周知することが、地域の人々の保存意識を高め、恒久的な保存・管理を行うことに繋がるため、指定文化看板の設置も継続して実施する。						
【成果指標】							単位
A	指定文化財の件数						件
B	指定文化財解説板設置済件数						件

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(決算)	2年度(決算)
事業費(千円)	923	587	832	696	415
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他	127	101			
一般財源	796	486	832	696	415

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
A	-	116	116	116	116
	116	115	116	116	116
B	-	86	87	89	89
	84	85	87	88	88

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・町指定文化財「天明飢饉之図」の掲載許可申請について、31件の許可を出した。 ・文化財防火デーの実施に合わせ、所有者及び管理者に防火防犯について呼び掛けを行い、火災等発生時の体制確認をすることができた。 ・文化財保護審議会を開催し、指定文化財の基礎調査を1件、文化財パトロールを15件行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「天明飢饉之図」の掲載許可を出すことにより、指定文化財の活用を図ることができた。 ・文化財防火デーを通じ、指定文化財の所有者へ保存に対する意識づけと、地域住民への周知を図ることができた。 ・文化財保護審議会において、指定文化財の現状把握を進めることができた。

3. 最終評価

【事業実施の方向性】		
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合等を検討 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合		
【今後の改善方針】		
文化財調査業務は多岐にわたるが、要調査文化財の状態把握とリストを作成し、優先順位を決めて計画的に調査を進める。特に指定されていない文化財の情報については、有識者の意見を基に情報収集し調査を実施する。		
成果の方向性	拡充	(理由) 文化財を後世に継承するため、現況調査を実施し必要な修繕及び活動支援が必要を行うことにより、「文化財保存・活用事業」として事業を拡充する。

事務事業 事後評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	「会津の御田植祭」調査事業				事業通番	13988	
					開始年度	平成27年度	
総合計画体系	政策	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	令和2年度	
	施策	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	教育文化課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	生涯文化係
	項	社会教育費		目	文化振興費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法
事務事業の概要	「会津の御田植祭」調査事業を実施する。
対象（誰、何を）	伊佐須美神社の田植神事
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	調査報告書及び映像記録が作成され、国指定無形民俗文化財に指定される。
成果の考え方	「伊佐須美神社の田植神事」の現状を調査・記録し、調査報告書や映像記録を通して周知されることで、行事の意義や歴史的意義が多くの町民に周知され、この行事が町を代表する伝統行事として後世に継承される。
【成果指標】	
A 調査・記録映像に関した延べ人数	単位 人
B 調査・記録映像撮影回数	回

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(決算)	2年度(決算)
事業費(千円)	1,000	1,076	70	1,080	891
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	1,000	1,076	70	1,080	891

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
A	-	25	12	70	30
	92	25	15	126	30
B	-	13	6	22	6
	39	37	2	17	3

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・類似祭礼及び周辺環境等の追加撮影を行った。新型コロナウイルスの影響により、令和2年度に撮影予定だった祭事が縮小や中止となり、令和元年度撮影の映像を使用することとなった。 ・追加撮影と映像編集が終了し、会津の御田植祭の映像記録が完成した。 ・会津の御田植祭調査委員会事務局として、事務を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・会津の御田植祭については、伝統文化継承や後継者育成のための映像記録が完成し、事業完了となった。今後は、この映像記録（DVD）を活用し保存継承に努める。

3. 最終評価

【事業実施の方向性】	
<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合等を検討 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合	
【今後の改善方針】	
新型コロナウイルスの影響により、令和2年度に撮影予定だった祭事が縮小や中止となったが、会津の御田植祭の映像記録を完了し事業完了となった。	
成果の方向性	休廃止(再設定) (理由) 事業完了となったため。

事務事業 事後評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	歴史民俗資料館設置事業				事業通番	15028	
					開始年度	平成29年度	
総合計画体系	政策	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	令和2年度	
	施策	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	教育文化課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	生涯文化係
	項	社会教育費		目	文化振興費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法・博物館法					
事務事業の概要	現在、旧赤沢幼稚園に収蔵してある考古資料や高田民俗資料室（会津美里町公民館分室2階）、新鶴民俗資料館（新鶴幼稚園2階）を統合した「会津美里町歴史民俗資料館」（仮称）の設置整備を図る。					
対象（誰、何を）	歴史民俗資料館					
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	歴史民俗資料館が開館する					
成果の考え方	令和2年度 大規模改修設計完成・大規模改修、民俗資料の梱包作業、整備委員会の開催 令和3年度 郷土資料館（仮称）整備委員会の開催・大規模改修終了 令和4年度 郷土資料館（仮称）整備委員会の開催・民俗資料等引越し 令和5・6年度 郷土資料館（仮称）整備委員会の開催・展示内容等について決定 令和7年度 開館					
【成果指標】						単位
A 資料館開館に向けた進捗率						%
B -						-

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(決算)	2年度(決算)
事業費(千円)		25	20	24	42
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源		25	20	24	42

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
A	-	50	75	75	50
	-	35	35	45	50
B	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-

(3) 活動実績及び成果

活動実績	・郷土資料館（仮称）整備検討委員会を4回開催し、会津美里町郷土資料館（仮称）整備計画を策定した。
成果	・郷土資料館（仮称）整備計画の策定により、具体的な文化財の収集機能や展示機能、情報発信機能について、地域住民をはじめ関係機関にも示すことができた。

3. 最終評価

【事業実施の方向性】	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合等を検討 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合	
【今後の改善方針】	郷土資料館の開設にはハード面のみではなく、展示の方向性や展示テーマが必要であり、早い段階で整備検討委員会において詳細を検討する。また、人員の配置については、関係課と調整を図り必要な人員の確保に努める。	
成果の方向性	拡充	（理由） 郷土資料館（仮称）整備事業の関連のため、今後は「文化財保存・活用事業」として進めていく。

事務事業 事後評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	歴史まちづくり推進事業				事業通番	15576		
					開始年度	平成31年度		
総合計画体系	政策	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり		終了年度	令和3年度	
	施策	5-4	施策名	地域文化の振興		担当課名	教育文化課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費		担当係名	生涯文化係
	項	社会教育費		目	文化振興費		重点プロジェクト	該当

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法・文化振興基本法・会津美里町歴史文化基本構想						
事務事業の概要	将来的に歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致維持向上計画」策定につなぐことができるよう、平成30年度に策定した「会津美里町歴史文化基本構想」に基づき、「地域住民の地域文化への意識醸成」「子どもたちへの地域教育」「文化財の活用事業」等を実施する。						
対象（誰、何を）	①町民 ②町内の文化財（指定未指定に関わらない）						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	①文化財をはじめ町の歴史文化について興味を持ち、保護（保存・活用）の意識や郷土愛をもつ。 ②存在を地域の人々に見直され、活用の可能性を見出される。						
成果の考え方	①の対象・意図に対しては、町の歴史文化等の周知活動の結果、歴史文化保護・活用がどの程度広めることができたかを成果として捉え、Aの指標を設定する。 ②の対象・意図に対しては、地域再発見事業の実施によって地域住民によって再発見された文化財（指定未指定に関わらない）があることを成果として捉え、Bの指標を設定する。						
【成果指標】							単位
A	講演会や学校での授業等で町の歴史文化に触れた町民の人数						人
B	地域再発見事業等確認され、台帳に登録された文化財の件数。						件

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(決算)	2年度(決算)
事業費(千円)				1,622	394
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源				1,622	394

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
A	-	-	-	500	500
	-	-	-	641	503
B	-	-	-	45	30
	-	-	-	0	0

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用のための講演会として、歴史的建造物の保存活用をテーマに講演会を開催した。 出前講座等を活用して地域再発見事業を実施した（八重松地区・和泉新田地区・本郷地区）。 高田中学校では、総合学習の時間に「西勝の彼岸獅子舞」や「太々神楽」を取り入れ、その成果を中間発表会で披露した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 講演会では、歴史的建造物を管理している地域住民の参加があり、今後の文化財保存・活用への意識醸成につながった。 地域再発見事業を実施により、地域住民が地域の歴史文化に興味や関心を持つきっかけづくりとなった。 地元の伝統芸能を取り入れた総合学習により、生徒たちが伝統芸能の大切さを深く認識し、地域への愛着心の醸成につながった。

3. 最終評価

【事業実施の方向性】	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合等を検討 <input type="checkbox"/> 廃止・休止又は統合	
【今後の改善方針】	
地域において、地域住民が地元の文化財直すきかけ作りとなる歴史講演会等を開催し、地域住民の積極的関与による文化財の保存継承につながるようなきかけ作りを推進する。	
成果の方向性	現状維持 (理由) 地域ごとの実状に応じた、地域住民による文化財保存継承意を広めることが重要であるため、今後は「文化財保存・活用事業」として進める。